

施策の方向性	事業名	主な実績
A	芸術文化魅力育成プロジェクト	<p>若手プロデューサーにチャレンジの場を与え、芸術文化の担い手を育成するとともに、そのプロデューサーが中心となって、大阪にある優れた芸術文化の魅力を発信していくことにより、大阪の文化活動を好循環に転換していくため、府市が共同して行う事業。（アーツカウンシルからの提言）</p> <p>○「OsakaCreativeArchipelago」として、10月から2月にかけて、若手プロデューサーの活動拠点（ギャラリー等）を使ったアート作品の制作展示、ライブパフォーマンスなどの「鑑賞プログラム」を5プログラム実施し、延べ2,190名の参加があった。</p> <p>○若手プロデューサーが自由に参加できるトークセッション、助成金相談会などの「育成プログラム」を5プログラム実施し、延べ433名の参加があった。</p> <p>○参加事業者（若手プロデューサー）数 6名 ○メディア掲載件数 62件</p> <p>（アーツカウンシルからの主な評価・提案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募時期、準備・開催期間の短さは、前年度に続く課題。人材育成がテーマの事業は、できる限り早期に公募し事業を開始することが望ましく、今後同様の企画を推進する際は十分に検討されたい。 ・魅力発信については、大阪の地域性を引き出す意欲的なプログラムが複数開催されたことを高く評価したい。 ・事前設定した目標（若手プロデューサー数5名以上、メディア掲載件数20件以上）の達成を評価したい。
A	芸術文化振興補助金	<p>府内の芸術文化団体が行う次世代育成に資する文化活動に補助し、子どもや青少年が優れた芸術文化に親しむことによる心豊かな成長や、大阪の文化を担う人材のすそ野の拡大を図る。</p> <p>○H30年度実施予定 応募件数36件、採択件数17件 ○H29年度実施結果 応募件数25件、採択件数17件</p> <p>（アーツカウンシルからの主な評価・提案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット等を作成し説明会を開催する点は評価したい。過去の助成対象者の報告会を開催することも、今後は検討してはどうか。応募が少ないジャンルに対する本制度の周知（広報の強化）は要検討。 ・できる限り多くの芸術文化団体から直接ヒアリングする機会（2次選考）を設けていることは本制度の特徴であり、書面だけで採択の可否を判断しない助成のあり方として高く評価できる。
A	府庁本館活用事業	<p>府庁本館を芸術文化活動の場として提供し、文化芸術団体が実施する自主的な事業を促進する。</p> <p>○4事業（プロ団体2事業、アマチュア団体2事業）を実施し、297名の参加があった。（出演者は、4団体38名） ○プロの歌劇団が予定する公演のイベントとして実施し、歌劇団のPR、公演PRの一助となった。</p>
A	大阪府アーティスト情報発信事業（バンク）	<p>府内で活動するアーティストの情報を広く府民に紹介することで、地域や学校における府民の自主的な文化活動をサポートする。</p> <p>○ホームページで公開する情報への更新は、随時実施。 ○平成29年度末の登録件数 個人65件（うち平成29年度新規登録数4件） 団体96件（うち平成29年度新規登録数1件）</p>
A	音楽指導事業	<p>中高生を主な対象とする管楽器、打楽器の演奏技術講習会を実施する。</p> <p>○南地区 10/8 場所：堺市立三国丘中学校 参加者：177名（H28年度205名） ○北地区 2/11 場所：豊中市立第一中学校 参加者：188名（H28年度313名） ○参加者の満足度 80%以上（H28年度80%以上）</p>
A	音楽体験事業	<p>日本センチュリー交響楽団が中心となって、子どもが楽器に触れるとともに、オーケストラの中で演奏を聴き、指揮をするなどオーケストラのあらゆる面を体験できるコンサート等を実施する。</p> <p>○タッチ・ジ・オーケストラ 18公演 参加者：2310名 ○夏休みファミリーコンサート 2公演 参加者1644名 ○支援学校コンサート 6公演 参加者：2539名 ○病院コンサート 5公演 参加者：535名</p>

A	輝け！子どもパフォーマー事業	<p>「メセナ自動販売機」「次世代育成型メセナ自動販売機」からの寄附金を財源として、文化に親しみ、参加、表現する機会を提供する事業のうち、子どもたち自身が参加し発表する事業に対して補助を行い、子どもたちの活発な文化活動を促進する。</p> <p>OH30年度実施予定 審査件数26件、採択件数16件 OH29年度実施結果 審査件数27件、採択件数17件</p> <p>(アーツカウンシルからの主な評価・提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレット等を作成し説明会を開催する点は評価したい。過去の助成対象者の報告会を開催することも、今後は検討してみてもどうか。応募が少ないジャンルに対する本制度の周知(広報の強化)は要検討。 できる限り多くの芸術文化団体から直接ヒアリングする機会(2次選考)を設けていることは本制度の特徴であり、書面だけで採択の可否を判断しない助成のあり方として高く評価できる。 申請者は、芸術文化振興補助金に比べ基盤が弱いことが多く、事業実施までのプロセスでアドバイスや支援ができれば、補助金をより効果的に活用できるのではないかと。
A	フェスパ次世代シアター事業	<p>咲洲庁舎1階フェスパを、子どもたちが様々な文化・芸術に親しむ文化活動の場として提供する。</p> <p>○4月に1事業実施し、726名の参加があった。(出演者：32団体566名)</p>
A	メセナ自動販売機の設置等	<p>飲料水の自動販売機の売上げの一定割合を文化振興基金に寄附いただく、「メセナ自動販売機」の設置促進等。平成29年度末に、咲洲庁舎と府庁別館内の次世代育成型メセナ自動販売機について期間終了となることから、事業者公募を実施。</p> <p>○平成30年度次世代育成型メセナ自動販売機設置事業者の公募に向けての営業活動を行い、4事業者から応募があった。咲洲庁舎と別館内の次世代育成型メセナ自動販売機を、平成30年度も継続して設置。</p> <p>○平成30年度も文化振興基金活用事業(芸術文化振興補助金事業、輝け！子どもパフォーマー事業、芸術文化顕彰事業、プラットフォーム形成支援事業の4事業)を継続。</p>
A	オーケストラハウス管理	<p>日本センチュリー交響楽団に貸付をしているオーケストラハウス(股部緑地内)の管理等を行う。</p> <p>○計画的に、適切な施設管理を行っている。</p>
B	上方演芸資料館(ワッハ上方)の管理運営事業	<p>大阪固有の文化である上方演芸を後世に伝えていくため、資料の収集・整理・保存を行うとともに、資料の館内・館外展示や上方演芸の殿堂入り等通じて、府民に上方演芸に親しむ場等を提供する。</p> <p>○ワッハ上方来館者数 14,096名(H28年度14,888名) ○満足度 90.4%(H28年度91.2%) ○登録資料の整理 100%終了 ○館外展示(府内3箇所で開催)</p> <p>【よしもと漫才劇場】 ・来場者数 6,989名(期間：10月21日～29日) 【大阪工業大学梅田キャンパス】 ・来場者数 12,197名(期間：11月15日～30日)、鑑賞者満足度 75.9% 【大阪府立中央図書館】 ・来場者数 44,801名(期間：1月30日～2月25日)、鑑賞者満足度 88.2%</p> <p>(アーツカウンシルからの主な評価・提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の保管場所を別途確保、リニューアル後に展示や催事を検討することは、発信力を高めるためにも良い方向性である。 展示、催事運営に当たっては、上方演芸の魅力と歴史を正しく発信できる事業者を選定していただきたい。 内外から訪れる観光客を意識した施設作りに加えて、若い層、次世代にも魅力ある企画を立案していただきたい。 現行のホームページは魅力に乏しい。リニューアルに備えて、上方演芸を検索すれば当資料館に行き当たる工夫を施したホームページ作りを望む。
B	大阪文化芸術フェス2017	<p>府内のホール・劇場や公園に、上方伝統芸能、上方演芸等の大阪が誇るコンテンツや、コンサート、演劇、アート等の内外のコンテンツを一堂に集め、合わせて実施し、競い合うことで、府民に文化を楽しむ機会を創出するとともに、府内全域に多くの観光客を呼び込む。</p> <p>あわせて、大阪が持つ多彩で豊かな文化の魅力を積極的に発信することにより、国際エンターテインメント都市の実現を目指すとともに、大阪の都市格の向上を図り、2025年の大阪万博につなげていく。</p> <p>平成29年度は、大阪府、大阪市、関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会、大阪観光局及び関西・大阪21世紀協会と「大阪文化フェスティバル実行委員会」を立ち上げるとともに、在阪放送局9社にも呼びかけて、オール大阪体制を構築。</p> <p>10月の1ヶ月間を大阪文化芸術フェス月間と位置づけ、府内全域で事業を展開。</p> <p>○主催プログラム 14件 公演数22回 ○共催プログラム 8件 公演数28回 ○メディア掲載数 556件</p> <p>(アーツカウンシルからの主な評価・提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一過性のイベントにとどまらない、後々、大阪の芸術文化の核となっていくことを期待する企画の発掘や人材の育成も視野に入れ、中長期的な視点で十二分に企画を練って実施される事業となることを願ってやみません。 行政と経済界が連携する実行委員会を組織したのは、よい方向性です。 イベントは本質的には消えものなので、大阪の活性化やブランディングにつなげていくためには、綿密な戦略を持って実施することが必要です。

B	芸術文化顕彰事業	<p>大阪の文化・芸術に多大な貢献のあった方の顕彰等により、大阪の文化振興の機運醸成や都市魅力のアピールを行う。(大阪文化賞、大阪文化祭賞、山片幡桃賞)</p> <p>○大阪文化賞 受賞者：井上道義 指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督、 石川県立音楽堂アーティストック・アドバイザー、 前 大阪フィルハーモニー交響楽団首席指揮者 授賞式：H30.2.8 シティプラザ大阪</p> <p>○大阪文化祭賞 受賞者： 大阪文化祭賞：TTR能プロジェクト 七代目笑福亭松喬 井上道義指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団 大阪文化祭賞奨励賞：豊竹芳穂太夫 iaku 玉造小劇店 周防亮介 野間景 授賞式：H30.3.12 リーガロイヤルNCB</p>
B	大阪文化再発見事業	<p>「大阪文化」の豊かさを再認識するため、市町村、大学及び研究機関等と連携し、「おおさからみんネット」や「阪神奈大・研究機関生涯学習ネット」を立ち上げ、府民向けの共催講座を実施する。</p> <p>○阪神奈公開講座フェスタ 講座数：19講座、参加者：1,121名 ○ふみんネット 講座数：6ブロック17講座、参加者：999名</p>
B	アーツスポット魅力発信事業	<p>公共の空間や施設内において、都市魅力を向上させ、観光集客につながるようなアート作品を設置することにより、大阪に新たな名所（アーツスポット）を創出する。平成29年度は、作品の設置や運営管理の方法等の調査検討を実施。</p> <p>○事業計画をとりまとめるにあたり、基礎となるデータの収集・分析、企画提案において民間事業者等の知識やノウハウ等を活用し、より効果的・効率的に実施するため、企画提案公募により事業者の公募、選定を行った。 ○専門家による懇話会を設け、事業コンセプト、事業内容、手法について意見交換等を行い、事業者の調査結果等をふまえて、事業計画をとりまとめた。</p>
C	江之子島文化芸術創造センター管理運営事業	<p>文化芸術の振興を図り、大阪の都市の魅力の向上に資するため、絵画等の収蔵作品の管理活用、交流・活動場所の提供、アートやデザインを活用した社会課題の発見、解決等、創造的な活動機会の創出を支援するための協働の拠点づくり等を実施する。</p> <p>幅広い人々に情報を伝えるべく、雑誌、新聞、WEB媒体への情報掲載依頼を積極的に行うと共に、展覧会時については、新聞社の後援を得ることで情報の周知を図った。</p> <p>○来館者数 145,331名 (H28年度：133,875名) ○企画展示 須田剱太展 (来館者数 547名/期間：6月9日～25日) 20世紀の写真芸術展 ※大阪市共催 (来館者数 1,174名/期間：11月22日～12月16日) 浅野竹二展 (来館者数 665名/期間：1月12日～28日) ○えのこdeわか(5月、8月、10月) ※近隣住民の来館促進、列伊伊と住民との交流の場の提供 ○ニュースレターの発行 (6月、10月、1月・各1万3千部発行) ○コレクションキャラバン ※府内の学校等に美術作品を持ち込み、解説付きの展示等を行う ○絵画等所蔵作品活用点数 1,101点 (内、「大阪国際がんセンター」193点等) (H28年度：1,011点) ○eno so done! (自治体等からの個別相談) 22件 ○文化芸術に関する活動を行った延団体等の数 649件 ○多目的ルーム1～4 (展示室仕様) 34.0% (H28年度：37.9%) 多目的ルーム5～12 (会議室仕様) 41.1% (H28年度：67.8%)</p>

C	プラットフォーム形成支援事業	<p>アーティストやデザイナー、府民、NPO、大学、企業等の多様な立場の組織や人が集まってプラットフォームを形成し、対等な立場で交流・対話を行い、アートやデザイン（コミュニティデザイン含む）を手法として、共に課題の検討や事業を推進するための支援を行う。</p> <p>(継続案件) ○住宅まちづくり部タウン推進局：阪南スカイタウンまちづくり支援事業</p> <p>(新規案件) ○豊能町：シティプロモーション ○池田市：五月山エリアのにぎわいづくり ○大東市：住道駅周辺の公共空間の活性化 ○吹田市：関西大学周辺のまちづくり ○西淀川区：マップの活用方法</p> <p>フォーラム ○国内外の先進事例で話題を集める講師を招聘し、参加者と知見を共有するフォーラム H29のテーマ：“まちを再生する新たなシナリオづくり”</p> <p>(アーツカウンシルからの主な評価・提案) ・現場担当者の明確なビジョンと熱い志により、5年間をかけてそれが実現しつつある、全国的にみても稀有な成功事例です。文化事業としてだけでなく、「やわらかい行政機構の実現」「公民連携のモデルの創出」という観点から、ぜひ継続していただきたいと思います。</p>
---	----------------	--

凡例：第4次大阪府文化振興計画 施策の方向性

- A 文化創造の基盤づくり
- B 都市のための文化
- C 社会のための文化